

## 令和6年度（藤沢総合高等学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

### ○ 課題・目標別実施結果

課題	目標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上	教育公務員としての自覚をもち、信用失墜行動を防止する	「職員行動指針」、「倫理に関する指針」に基づき、県職員・教育公務員として求められる姿勢を確認した上で、職員一人ひとりが、生徒、保護者や県民の期待と信頼に応えることができるよう取り組んだ。定例の研修や記者発表資料を活用し自ら点検を行い、結果を共有することで信用失墜行動の防止につなげた。
職場のハラスメント(パワハラ・セクハラ・マタハラ等)の行為防止	人権意識を高めハラスメントのない風通しのよい職場づくりをする。	人権研修や啓発資料等を活用した情報共有、セルフチェックを実施し、職員の声を生かしながらハラスメントのない風通しのよい職場づくりを行った。 生徒・保護者・県民の声に対しては教職員・管理職が丁寧に対応し、記録を残して共有を図った。
児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止	教育の専門家としての自覚・意識を高め、生徒に対するわいせつ・セクハラ行為を絶対にしない。	管理職による面談や日常的な声掛け等を行い、生徒の連絡先の管理方法などルールの遵守を徹底し、セクハラ・わいせつ行為の防止につなげた。教職員が加害者に絶対にならないように、生徒とのSNS等の利用禁止の徹底、私物端末利用やclassroomでの生徒とのやりとりを含めたルールについて、周知を徹底した。
体罰、不適切な指導の防止	体罰・不適切指導は、あってはならない行為と共に認識し、未然に防止する。	啓発資料、研修資料等を活用して研修を行い、文化的背景まで踏まえて生徒を理解できるよう努め、職員が相互に気づきを共有して、人権を尊重する姿勢を身に付けられるよう取り組んだ。 「校内人権窓口」の周知やサポートドックの活用を含めて、生徒が抱える様々な課題について、より相談しやすい環境を整えた。
入学者選抜、成績処理、進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止	マニュアルに基づく作業手順や点検体制を再確認し、事故を未然に防止する。	成績処理、調査書・進路関係書類の発行にあたっては、マニュアルを理解した上で業務を進めるよう、確認・点検を徹底した。さらに誤りが生じやすい個所については適宜マニュアルの見直しを行った。 入学者選抜業務については、計画的に複数の校内研修会を行い、事故の未然防止に努めた。
個人情報等の管理、情報セキュリティ対策	個人情報の管理には細心の注意を払い、流出や紛失を未然に防止する。	電子情報を含めた個人情報等の管理について、ルールを再提示して確認させ、流出や漏えいの防止を徹底した。個人情報の校外持ち出しは研修旅行等限られた場面だけとし、欠席者への答案返却のルールも周知され、職員の規範意識も高まった。
交通事故防止、酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	教育公務員としての自覚をもち、法規範遵守の徹底、交通事故、飲酒運転等の根絶を図る。	交通事故、飲酒運転の根絶に向けて、啓発資料等を活用して研修会を行い、飲酒をした場合の翌日への影響なども具体的に示して、注意を喚起した。交通事故ゼロの達成に向けて、次年度もさらに職員の意識向上を図っていく。
業務執行体制の確保等	不適正な業務執行を未然に防止する。	特に私費会計の業務について、私費会計基準に則った執行方法を確認し、執行体制を整備して職員の負担感を軽減し、不適正な執行を未然に防止した。 職員が気になることを共有し、管理職への「報・連・相」を行いながら、業務を改善していく姿勢が形成されてきている。今後も不祥事等の情報を自分事としてとらえ、生徒・保護者・地域に目を向けて業務を進められる協働的な態勢を整えていく。

## ○ 令和6年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和7年度に取り組むべき課題 (学校長意見)

教育公務員として、自校・他所属で起きる様々な事故・不祥事を「自分事」として捉え、不適切な事案や不祥事に繋がるような事象を絶対に起こさない職場をめざし取り組んできた。職員全体にも時機を逃さず、意識啓発・注意喚起を行い、不祥事ゼロに向けた行動を促し、概ね目標を達成することができた。

令和7年度に向けて今年度の目標達成状況を踏まえた上で、目標を改めて設定し、職員一人ひとりがより高い意識をもち、不祥事ゼロを徹底し職員の事故・不祥事防止の取組みは適切に進めてきた。経験の浅い教職員が多い職場において、協働性や組織力の向上は今後も対応が必要な課題である。働き方改革もまだ十分な成果は得られておらず、引き続き取組みを進めていきたい。